

# 令和2年度自己評価計画書

石川県立内灘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判断基準	備考(時期・対象)
1 生徒の学力向上に向け、BYOD (Bring your own device) を効果的に活用しながら授業力の向上を図る。	① 授業や朝学習等においてClassiの課題配信機能、動画配信機能、eポートフォリオ機能やロイロノート等BYODを効果的に活用し、学力を向上させる。	教務課 進路課	これまで本校のBYODのスタイルは統一されていなかったため、授業評価アンケートにおけるBYOD活用についての肯定的な回答も60.1%と高くはなかった。	【満足度指標】 授業等においてBYOD(各自のスマートフォン)が効果的に活用されていると考える生徒の割合を高める。	A 肯定的な評価が80%以上 B 肯定的な評価が70%~79% C 肯定的な評価が60%~69% D 肯定的な評価が60%未満	C・Dであれば活用のあり方を検討	学校評価アンケート(生徒対象)
			これまでは継続して基礎力診断テストを受験していなかったため、生徒も教員も学力の伸びを具体的に感じることはできなかった。	【成果指標】 年3回実施する基礎力診断テスト3教科のゾーンの底上げをはかる。	A 4月に比べ+2以上 B 4月に比べ+1 C 4月と同じ D 4月に比べ-1以下	C・Dであれば指導のあり方を検討	基礎力診断テスト(4・9・1月)
			スマートフォンの不適切な使用も時として見られ、いじめにつながることもあった。	【満足度指標】 生徒がいじめのない安心できる学校生活を送ることができる。	A 肯定的な評価が80%以上 B 肯定的な評価が70%~79% C 肯定的な評価が60%~69% D 肯定的な評価が60%未満	C・Dであれば指導のあり方を検討	学校評価アンケート(生徒対象)
			本校の時間外労働は月平均3.2時間程度であり、継続してワークライフバランスを意識することが求められている。	【努力指標】 教員による効果的なICTの活用や業務の Slim 化等によりワークライフバランスを意識する。	A 肯定的な評価が80%以上 B 肯定的な評価が70%~79% C 肯定的な評価が60%~69% D 肯定的な評価が60%未満	C・Dであれば業務のあり方を検討	学校評価アンケート(教員対象)
学校関係者評価委員会の評価							
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法							
2 生徒の基本的な生活習慣の確立を図り、家庭での学習時間を確保する。	① 学習以外の用途でのスマートフォン等使用時間について、生徒に主体的に考えさせ、家庭での学習時間を確保させる。	生徒課 保健相談課 教務課	昨年度は教授内容を授業で完結する教員も多かったため、教科書等を持ち帰らない生徒も多かったように思われる。	【努力指標】 生徒一人一人の負荷を考えながら、生徒に適切な量及び内容の課題を課すことができる。	A 肯定的な評価が80%以上 B 肯定的な評価が70%~79% C 肯定的な評価が60%~69% D 肯定的な評価が60%未満	C・Dであれば学校として再度意思疎通必要	学校評価アンケート(教員対象)
			全校生徒の昨年度スマートフォン等使用時間は1日平均5.7時間であった。	【成果指標】 スマートフォン等の使用時間を生徒が主体的に制限することができる。	A 1日平均4時間未満 B 1日平均4時間以上、5時間未満 C 1日平均5時間以上、6時間未満 D 1日平均6時間以上	C・Dであれば指導のあり方を検討	生活習慣アンケート(1月)
			昨年度は家庭での学習時間を調査しておらず、実態把握が第一歩と考える。	【成果指標】 生徒が1日1時間以上の学習時間を確保している。	A 1日平均1.5時間以上 B 1日平均1時間以上、1.5時間未満 C 1日平均0.5時間以上、1時間未満 D 1日平均0.5時間未満	C・Dであれば進路学習との関連検討	Classi学習時間集計
学校関係者評価委員会の評価							
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法							
3 同窓会や地域の支援も受けながら、生徒の進路意識を高め、進学や就職につなげる。	① 特に近年本校を卒業し、進学・就職した、生徒にとって身近なOB、OGを中心に支援をいただきながら、生徒の進路意識を高める。	進路課 総務課	昨年度の進学又は就職の希望未決定者割合は5月、9月、1月の順に、1年28%、21%、18%、2年9%、9%、11%であった。	【成果指標】 1年、2年における進学又は就職の希望未決定者割合をそれぞれ10%以下、5%以下とする。	A いずれの目標も達成できた B 片方の目標を達成できた C どちらの目標も達成できなかった	Cであれば指導を再検討	進路志望調査(5・9・1月)
			昨年度の4年制大学進学者は7名、就職希望者の就職決定率は95%であった。	【成果指標】 3年生の4年制大学進学者7名以上、就職希望者の就職決定率100%を達成する。	A いずれの目標も達成できた B 片方の目標を達成できた C どちらの目標も達成できなかった	Cであれば指導を再検討	進路実績
			近年転退学者が各学年数名ずつおり、目的意識を持って高校生活を送ることが求められている。	【満足度指標】 本校に進学して良かったと考える生徒、子どもを進学させて良かったと考える保護者の割合80%以上を目指す。	A 肯定的な評価が80%以上 B 肯定的な評価が70%~79% C 肯定的な評価が60%~69% D 肯定的な評価が60%未満	C・Dであれば生徒の意見を聞いた上で、指導を検討	学校評価アンケート(生徒・保護者対象)
学校関係者評価委員会の評価							
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法							